

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Autumn 2021

Vol. 52

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJYUEN

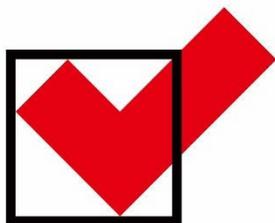
TOPICS

HOJYUEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOJYUEN × FAMILY



トピックス
T O P I C S

ACTION! 防災・減災

命のために今うごく

ACTION! 防災・減災キャンペーン実施中!

日本赤十字社はこれまで「私たちは、忘れない。」キャンペーンを展開し、東日本大震災などのこれまでに発生した災害の「風化防止」「復興支援」を行ってきました。これからは未来に目を向けた「防災・減災への備え」として、一人ひとりが命のために行動を起こすことを呼びかけるため、「ACTION! 防災・減災キャンペーン」を展開しています。

特設サイトでは、防災・減災に関する様々な情報等を紹介しています。ぜひ、ご覧いただき、自分自身の命を守るための行動につなげてください。

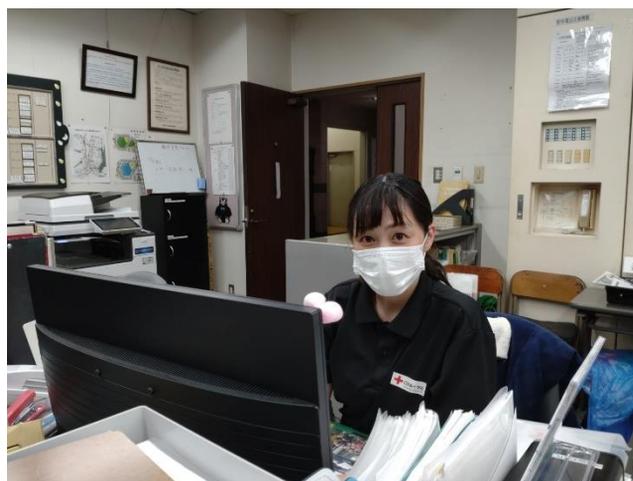
日赤 防災・減災

Q 検索



介護ソフトを切り替えます!

豊寿園では、業務効率の向上、情報共有の円滑化、サービス内容の充実を目指し、ICT化に向けた取り組みを進めています。その一環として、このたび利用者様への請求書作成などを行う介護ソフトを、株式会社ワイズマンの介護システムへと切り替えを行います。それに伴い、10月にお送りする利用料請求書から、これまでの様式とは異なるものに変更となりますのでご注意ください。請求書様式の変更に伴い、ご不明な点などございましたら生活相談係までご連絡ください。



今年度第2回目の消防訓練を実施しました!

9月8日、今年度第2回目の消防訓練を実施しました。当日は、夜間に屋外のごみ置き場から不審火が発生した想定で初期消火・通報・避難誘導などの手順を確認しました。空気の乾燥するこの時期。豊寿園では万一の際に対応できるよう日々の訓練を重ねていきます。





9月 敬老会を開催しました。コロナ禍で昨年同様にご家族と職員のみで記念の御年を迎えられた方々へお祝い状を贈呈し記念撮影を行いました。



8月 夏を感じていただくため、スイカ割りを行いました。スイカの紙風船をいっぱい割ってお楽しみいただきました。



7月 東京オリンピックをテレビ観戦しました。



8月 好きなアイスクリームを選んで涼をとっていただきました。

デイサービス

七月



7月 短冊の願い事がかないますように・・・。

厨房イベント



7月 厨房職員と一緒にドーナッツを作りました。

生け花



8月 なかなか きれいな作品ができました。

習字



9月 好きなものを書いてみました。

敬老会



9月 敬老会にてデイ最高齢101歳の方の表彰が行われました。



地域ぶらり情報



韓国気分を味わいながら♪

門司港レトロより老松公園方面に進み、徒歩10分程の所に、カフェ『giff』(ジフ)があります。

小倉のカフェ『DAISY』の姉妹店で、2021年7月にオープン。ずっと気になっていましたが、緊急事態宣言が解除になり、やっと訪問することができました！韓国をイメージして、白を基調に、赤・青・黄のカラフルなカラーを取り入れた店内は、とても可愛くお洒落です。ここでは、韓国で大人気の『糸ピンス』が食べられます。『糸ピンス』とは、そのものに味がついている氷を糸のような細く削ったかき氷です。重なった氷がふわふわで不思議な触感も楽しむことができます。

でも今回のお目当ては、『ホッキョクグマかき氷』。流氷をイメージしたメレンゲクッキーに乗ったふわっふわのかき氷とトッピングと一緒にトレイで運ばれてくるので、自分でトッピングを楽しむながら食べ進めることができます。トッピングのシロクマを模ったチョコを載せた姿はとっても可愛いです。かなりの量のかき氷ですが、ふわっと溶ける氷とレモンシロップやクリームチーズにより味が変わるので、飽きずに食べることができます。その他にも、クッキーチーズケーキやスモアクッキー、マカロンなどのスイーツに、約20種類のドリンクがあります。テイクアウト用の缶やボトルドリンクもポップで可愛いさ抜群ですので、韓国で流行りのスイーツを食べて旅行気分を味わってみてはいかがでしょうか。

カフェ giff

北九州市門司区東門司1-1-20
近隣にコインパーキングあり
営業日 不定休
OPEN 12:00~20:00



あとがき

10月に入り、全国で新型コロナに対する緊急事態宣言が解除されました。まだまだ安心できない日々が続きますが、子を持つ親としては、運動会や授業参観などの行事がこれまで沢山犠牲になっているので、少しでも思い出を残せる生活を送ってもらいたいと願って止みません。そんな親の思いを横目に、我が家の長女は反抗期真っただ中。事あるごとに口ごたえをします。可愛かった頃の写真を眺めつつ、早く新型コロナと子供の反抗期によく効く特効薬が出てこないかと独り愚痴っています。

そんな日々ですが、豊寿園では利用者様を笑顔にしてしまう魔法の薬のような職員たちが奮闘しています。その効果の数々はこの「豊かな樹」でご紹介していきます。今後も豊寿園にご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹



今回のCOVER
今回表紙を飾ってくれたのは、信田理恵さん(特養2階)です。桜子ちゃんの出産を経て今年5月に復帰。育児と仕事との両立で忙しい中、撮影に協力してくれました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、昨年11月に豊寿園でお看取りさせていただきました小川サチエ様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族了解のうえ、奥水介護課長の手記をもとにご紹介します。



今回ご紹介する小川サチエ様。お元気な頃にお誕生日をお祝いした際のお写真。笑顔が素敵でユーモアのある方でした。

— 奇跡的に回復され、平成29年9月豊寿園のへ入所されました。 —

小川様は、ご主人の介護をされ見送られた後、独居生活を送られていました。その頃より物忘れが出現したそうです。平成28年肺炎で入院をされた際、ご家族に、「家に帰りたくない」といわれ有料老人ホームに入居されました。けれども、入居先でも再び肺炎で入院となり、病院でも食事が摂れず、ご家族は主治医から、胃ろうや看取りのことなどの説明を受け、いつどうなるか分からないと覚悟をされていたそうです。しかし、その後奇跡的に回復され病状は安定したことから退院するこ

ととなり、ショートステイを経て、平成29年9月に豊寿園へ入所されました。入所当初は、入院生活が長かったこともあり、身体機能は低下しており、ベッドから起きて過ごす事もきつそうな様子でした。ご自分から「横になりたい」と訴えることが続きました。しばらく経つと、徐々に食事が増えていき、体重の増加と共に、離床時間も増えていきました。いろいろな活動や行事へ参加され、お話も沢山されるようになっていきました。これには娘さんも驚かれ、「元々曲がっていた性格が、豊寿園でまっすぐになったようです。(笑)」と嬉しそうでした。

— 「2年前はもう危ないと言われたのに、信じられません」 —

入所から1年後にはリクライニング車椅子から普通型の車椅子で過ごせるようになり、ホール内は自由に自操するまでになりました。ご家族より「面会に来るたびに笑顔も増え本当に元気になりました」と喜んでいただきました。

令和に入り、入所から2年目に。娘さんも、「2年前はもう危ないと言われたのに信じられません。」と感慨深

げに話されたのが印象に残っています。しかし、その年の冬に排便からの意識消失があり、医師より「寝ている間になくなっていることもある」と説明がありました。娘さんは、「苦しまずに逝くのならばそれはそれでいいと思います。」と延命処置や医療行為は希望しないと決められました。そのような話をしているとは知らず、ご本人は活動の場を広げ、行事の際には利用者様を代表してご挨拶をされたり日々の生活を楽しまれていました。

小学生と年間通して行われていた交流会では、必ず「かわいいね。」と子供たちを見ては涙ぐんでお話をされていました。その為、子供たちもすっかり小川さんのことを覚えてくれました。令和2年になり、急に食事量の低下がみられるようになりました。ご飯は食べてもおかずは食べない。理由をお聞きしても「食べたくない」と言われるばかりでした。少しでも口から何か摂ってもらいたいと、食事形態を変えたり、高カロリー飲料を提供するなど、介護職員はあの手この手で小川さんに勧めていました。

ご家族にも食べなくなっていることを伝え来園していただき話し合いを行いました。私たちとしては、なぜ食べないのか、食べられない理由があるのかもしれない、と病院での検査を勧めましたが、娘さんは、本人が病院嫌いなのでと検査を希望されませんでした。

—急に食事量の低下が見られるようになりました。—

結局、もうしばらく様子を見てみることになり、3食を高カロリーの飲み物のみにしてみました。ご本人からは、「水をください」「水をください」と欲しいものを訴えることはできていました。高カロリーの飲み物も「甘いものは嫌」と言われるようになったため食事を普通のものに戻してみました。結局汁しか口にされず、固形物は食べられませんでした。再度ご家族に來園していただき、囑託医からも「今なら病院で点滴でももらったら元気になるかもしれない」と小川さんに勧めました。けれども、「病院には行きたくない。ちゃんと食べるから」とご本人は断固として拒否されたため、娘さんと私たちとで、ご本人の意思を尊重することを確認し、看取り対応を開始することになりました。

その翌日に開催した秋祭り、介護職員が「ビール飲みますか？」と勧めると「いいね！」と表情を変えてすぐに1本を空けられました(ノンアルコールです)。翌日から小川さんの水分補給はノンアルコールビールということになりました。また、小川さんがよく話されていたご自宅近くにあるパン屋から名物パンを買ってきてみると、「うれしー私これ大好き！」と喜んでくれました。

翌月になると徐々に車椅子で過ごすのがきつくなってきました。相変わらず食事は摂れませんが「コーヒーが好きで」と持つてきてくださったのを部屋に入れて香りを楽しんでくれました。一口ほどしか飲めませんでした。そんな日々でしたが、ご家族が面会に來ると、手を握って嬉しそうにされ「食べてるよ」と心配させないように話されているようでした。「水が欲しい」と水を一日数個くちにするようになりました。時には、「ご飯を食べたい」と言われたこともありましたが、お粥を口に入れると「おいしい」と言われますがその一口だけで止まってしまいました。

—「食べてくれました！」と皆で喜んだものでした。—

ある日、小川さんは買い物行事に参加をされました。数ある商品の中からご自分で選ばれたカップ麺を買われました。職員がお湯を入れて作り、介助すると汁や麺・具を数口食べられました。介助した職員が「食べてくれました！」と皆で喜んだものでした。そんな嬉しいことがあった次の日、7時ポカリの水を3個ゆつくりと食べられ、声掛けに頷くもいつもの元気な声が聞

かれずゆつくりと眠られていました。10時 看護師が検温に行くと、足底にチアノーゼを発見しました。声をかけると目は空けられるものの血圧は測定できなかったためご家族へ連絡しました。12時チアノーゼが徐々に広がり、呼吸が肩呼吸に変わっていききました。「小川さん」「小川さん」と職員が入替わりながら「もうすぐ娘さんが到着しますよ」と声を掛け続けました。12時55分 ご家族が到着。駆け足で部屋まで案内し「お母さん」と声をかけられました。すると、それを待っていたかのようにゆつくりと呼吸が止まりました。「昨日はカップ麺を食べたのに。」職員達は急に逝ってしまった小川さんとの別れをなかなか受け止めることができませんでした。どんな時でも「ありがとう」と感謝の言葉をたくさんいただきました。最期まで自分のことは自分で決める小川さんらしく過ごされました。



写真 最期はノンアルコールビールが水分補給源でした。食べることが大好きな方でした。

Autumn 2021

Vol. 52

TOPICS

HOUJYUEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOUJYUEN×FAMILY



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN